



2023年 8 月 10 日 第2529回例会  
8 月第 1 例会

RI会長テーマ: Create Hope in the World  
「世界に希望を生み出そう」

本年度会長テーマ Build FUTURE  
「50年の過去に感謝し、50年先の未来を築こう」

## 「会員増強・新クラブ結成推進月間」「平和月間」

### ◆ 会長時間 ◆

諏訪(浩)会長

【会員増強・新クラブ結成推進月間によせて】  
ロータリーは「自己教育運動」です。



8月は「会員増強・新クラブ結成推進月間」です。

そもそもRIが特別月間に指定して会員増強を推奨するのはなぜでしょうか。それは会員数減少の流れが止まらない

からです。1996年、日本のロータリークラブ会員数は約13万人でピークを迎えた後、毎年減少し、現在は約8万人です。世界全体で見ると、同じ年に120万人に達した後、ほぼ横ばいの状態が続いています。減ってはいませんが、実は退会者と同数程度の新入会者があり、何とか補っているという状態です。

では、当クラブの会員数を増やすために、私たちは何ができるでしょうか。ひとつは入会者数を増やすこと、もうひとつは退会者を減らすことです。

入会者数を増やすには、会員増強が他人事ではなく、全ての会員にとって積極的に取り組むべき問題であることを認識し、取り組むことが求められます。ロータリーは社会のコピーではありませんから、年齢、性別、国籍、社会的地位や名誉、学歴、すべて関係ありません。要件はただひとつ、「志」です。ロータリーという自己教育運動で自分を高め、さらに世の中を良くしていこうとする気持ちさえあればいいのです。ですから、候補者には、「難しいことはええけえ、とにかく入りんさい」ではなく、「ロータリーは自己教育運動で

すよ…仲間同士の付き合いの中で養われた人に優しくする心を、職場や社会で発揮するのがロータリーの奉仕ですよ。あなたはロータリーで自己教育をする気持ちはありますか？」とはっきり尋ねなければなりません。これが、実は入会者増加に繋がるのではないかと思います。

一方、退会者を減らすためにはどうするか。国際ロータリーが行った世界中のクラブの退会者に対するアンケートによると、入会后1年以内の退会の場合、その最も大きな理由の一つが、入会后にロータリーに関する十分な教育を受けなかったことです。つまり、仮に「ええけえ入りんさい」で入会された方に対しても、入会后にしっかりとロータリーの本質を伝え、志を持っていただくよう導かなければなりません。

### ☒ 物故会員に黙祷

広島西南RC 山本 豊 (やまもと ゆたか) 名誉会員 (榊山豊 取締役会長) が7月28日にご逝去されましたので、謹んでお知らせいたします (享年97歳)。

### ☒ 青少年交換派遣学生 上野 壮亮君 (17才) お見送り

8月6日、上野 壮亮君はアメリカ テキサス州 ダラスに無事旅立って行きました。



**同好会 取り切り戦表彰**



会長杯（紫友会）田原 真一郎 君



副会長杯（紫雀会）小橋 敏幸 君

**会務報告** 吉田(大)幹事

- ❏ 在広RC合本名簿をBOX配布しておりますので、お待ち帰りください。
- ❏ ロータリーレートが8月から1ドル141円（7月まで145円）に変更になりました。
- ❏ 第2710地区 地区大会（11月10日(金)～11月12日(日)）のご案内（全員登録）
- ❏ 例会終了後、4階「アマリリス」において8月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

**委員会報告**

❏ **プログラム・出席委員会**

**出席報告** 南條副委員長

本日（8月10日・木曜日）  
 会員数 90名 出席者 73名  
 欠席者 17名 ご来客 0名  
 ご来賓 0名 ゲスト 1名  
 計 74名  
 4週前の例会2023年7月6日・木曜日  
 出席率 100%



❏ **会報雑誌・広報委員会** 古屋君  
 ロータリーの友誌紹介

❏ **親睦活動委員会** 山縣委員長  
**夜間例会並びに会員懇親会**

7月27日の夜間例会並びに会員懇親会では大変多くの皆様にご参加いただき、とても楽しい会とすることができました。皆様のご支援とご協力に心から感謝申し上げます。次回は12月21日、夜間例会並びに家族同伴懇親会になります。しっかり企画を練り準備してまいりますので引き続きご指導、ご協力よろしくお願いいたします。



**第1回 ロータリーサロン**

8月3日、第1回ロータリーサロンを無事開催することができました。一部の基礎研修会ではロータリー情報委員会のご協力のもと、新会員中心に計14名での開催、二部ビアガーデンでの懇親会は総勢31名のご参加をいただきました。こちらも大変楽しく有意義な活動であったと思っております。引き続きご指導、ご協力よろしくお願いいたします。





## ● 会員記念日

🌸 8月お誕生日おめでとうございます。

(8名)

松岡(輝)君	川妻君	松岡(幹)君
木村君	山木君	加藤君
川村君	千代山君	



## ● スマイルボックス SAA 村上(健)委員長

👤 宍戸君 (自主申告・トリプル)

先月、広島ゴルフ倶楽部鈴が峰コースで行われた3大競技 理事長杯で優勝しました。

予選で14位と優勝圏外から大きく離れた位置での決勝だったので、気負わず、ノープレッシャーでのラウンドでした。そのお陰か、思わぬ好スコアが出て、大まくりで勝ってしまいました。2008年にキャプテン杯を取ってから15年ぶりのタイトル獲得です。

👤 大地君 (自主申告・ダブル)

皆様のボックスに、KAGURA2023 横田神楽団、桃李×龍勢(藤井酒造) コラボレーション賞味会のご案内を入れさせていただきました。横田神楽団は神楽競演大会「ひろしま神楽グランプリ」で2007年度以降、13年連続優勝を飾る県内有数の神楽団です。

賞味会は、純米酒「龍勢」と中国料理 桃李のこの日限りの特別コースをご用意させていただきます。大切な方とのひと時にご利用いただければ幸いです。

👤 紫雀会 優秀成績の皆さん

小橋君が優勝し、取り切り戦も制されたのでダブル×2。3位の笹野君も出宝よろしくお願いたします。

👤 森信君、上田君、新原君、小橋君、下岡君

広島経済レポート7月13日号に、わたしの青春コーナーに「われら国泰寺高校同窓会」と題し掲載されておりました。

6月24日に、恩師の三上先生ご夫妻を迎え、鬼籍に入った5人を悼む<sup>いた</sup>とともに、参加者10人でクラス会を市内で開催されたそうです。

森信君は2021年11月より、国泰寺高校 鯉城同窓会の14代会長に就任され、さまざまな改善により、運営収支黒字化に成功したそうです。

国泰寺高等学校 鯉城同窓会の益々のご発展を祈念し、森信君はじめ、国泰寺高等学校同窓生の方がいらっしゃれば笑顔で出宝をよろしくお願いたします。

## ● スマンボックス

👤 山縣君

私は7月27日会員懇親会の際、司会者にもかかわらず「新会員」と紹介すべきところを「新入会員」としゃべってしまいました。すまんBOXにて反省の意を表したいと思えます。

## ● 卓話予告

日時	テーマ
8/24(木)	「我が家がかつて、 広島平和記念資料館の位置にありました」 山縣 浩一君

## ■ 卓話



諏訪 昭浩 会長

会長時間では、お茶の間の話題や趣味娯楽の話題は避け、クラブやロータリーに関わる情報を提供することが推奨されています。会長時間でロータリーという人生哲学を皆さんに伝えることこそ会長の最も重要な職務です。今日は会長卓話として会長時間に収まりきらないことをお伝えするためお時間をいただきました。

ロータリーが誕生したのは1905年2月23日。酒、賭博で乱れきった大都市シカゴに出てきた田舎者の弁護士ポール・ハリスが、仕事抜きに和気あいあいと付き合える仲間が欲しかったと言う理

由で、他の3名と共にシカゴロータリークラブを設立しました。日本では日露戦争終結の年でした。

この頃のロータリーが互惠主義で自分たちだけ儲かるクラブだったことに対して、当時も現在も批判はありますが、ポール以外は学歴も低い中小零細企業の経営者の彼らにとって、まず自分が生き残ることが最優先だった事は理解しておかなければなりません。

設立から3年後の1908年に、アーサー・フレデリック・シェルドンがシカゴロータリークラブに入会し、ロータリーの奉仕を理論的にまとめあげました。シェルドンは、互惠主義で仲間だけが儲かったロータリーの活動が、実は相手のことを親身になって考える心に基づいていることを見抜き、自由主義社会では避けられない競争を前提としながらも、相手に対する思いやりがある商取引によってのみ、当事者はお互いに長期的に利潤を安定させることができると説きました。これが、いわゆる、利己と利他の調和を前提とするロータリーの職業奉仕となっていきます。

この後、シェルドンの理論は、職業奉仕だけにとどまらず一般化されていき、ロータリアンは、仲間のロータリアンとの付き合いの中で誰とでも仲間として接する「自己教育」を行い、その結果、人に優しくする心を育て、これを、まずは職場で職業奉仕として発揮することを基本としながら、それにとどまらず、家庭で、そして一般社会で発揮する人々である、という、現在でも有効な、「一般奉仕概念」が確立されていったのです。

さて、この「一般奉仕概念」がシカゴクラブにとどまらず全ロータリークラブに普及し始めるあたりから、ロータリー世界は少々血なまぐさくなっていき、まさに産みの苦しみとも言える混乱を2度も経験します。

ポール・ハリスは、職業奉仕を基本とした一般奉仕概念をシカゴロータリークラブの中で積極的に広めようとしたのですが、そのやり方が少し強引すぎたため、これまで通り親睦と相互扶助でいいじゃないかという会員との不協和音が生じ、ポールは四代目会長を任期半ばにして辞任しました。これが1度目の混乱です。その後ポール・ハリスは全米に増えつつあったシカゴ以外のロータリークラブ全16団体を束ねる団体として、現在のRIの

前身である全米ロータリークラブ連合会を結成し、初代会長となりました。そして、この団体をベースに、「一般奉仕概念」を広くロータリー世界に普及させていきました。この過程で、ロータリーは親睦だけでいいという考えはなりを潜め、ロータリーは対外的奉仕をするのだという考えが一般化していきました。

「自己教育運動」を行う個人による職業奉仕を中心とした「一般奉仕概念」が全てのロータリークラブに普及していく過程で2度目の混乱が起こります。今度は、どんな奉仕をするのかでもめたのです。職業奉仕か社会奉仕か。すなわち、個人が職業を通じて行う職業奉仕こそがロータリーの奉仕だと考える伝統的な一派と、団体的に行う社会奉仕をもっと進めるべきだと考える急進的な一派が激しく衝突しロータリーは分裂の危機に瀕します。これを終結させるためには、ロータリーの奉仕とはどのようなものを明確に規定する必要があります。それを成し遂げたのが、いわゆる「決議23-34」と言われる1923年の国際大会における決議34号でした。

「決議23-34」では、ロータリーの奉仕は個人による奉仕を基本としながらも、クラブによる団体奉仕も認められました。クラブによる団体奉仕やポリオプラスなどのRI主導型の奉仕が目立つ余り、ロータリーは団体奉仕を行う奉仕団体かのような印象を持たれがちですが、その基本は個人による自己教育と個人による奉仕であることを忘れてはなりません。

ロータリーとは何か。よく聞く質問ですが、ロータリーの奉仕理論は、この1923年に確立しているのです。その後は、熱心なロータリアンたちの理論の探求や解説が続きましたが、その対象は「一般奉仕概念」です。しかし、次第に、そういう理論ではなく、クラブまたはRIが主導する「奉仕の実践」のみがクローズアップされるようになり、いちばん大切なロータリーの本質の伝承が置き去りにされているのが現在です。

なぜこんな簡単なことが、特にクラブ内で伝承されなくなってしまったのでしょうか。日本初のロータリークラブは当時の日本で超一流の経営者が担うしかありませんでした。その弊害は今に続き、ロータリーは偉い経営者の集まりである、と



の大きな誤解が生じる原因になりました。ロータリアン自身の中にも、自分は偉いのだという大勘違いをしている方々がいらっしゃいます。ただ、東京ロータリークラブ設立当時の彼らは非常にロータリーを勉強し、後世に伝える礎を作ったのです。彼らが築いたロータリーを真剣に学び後世に伝えるという流れが崩れてきたのは、どの組織にもある経年劣化だと言えます。人も組織も楽な方に簡単な方に流れていきます。1970年代には、ロータリー哲学を真剣に学び実践してきた伝統を受け継ぐ日本の心あるロータリアンたちがロータリーの将来を憂う事態になっていたようです。ロータリー研究家の小堀 憲助は、「ロータリー思想の理論構造」の中で、1970年代にこのように述べています。「現在日本ロータリーにおいて発生しつつある『大混乱』は、ロータリーが個人奉仕を中心とする社交団体であり、この団体の支えの上にRIの組織があり、従って、ロータリーの理論の探求及び開発は、第一次的には各ロータリアンにあることを忘れ、ロータリアン各自と各ロータリークラブが、このような理論構造についての探求を怠り、あたかもRIの忠実な僕（しもべ）たるガバナーの下僕として奉仕のプログラムを強要されるところにある。」これは、現在のロータリアン、ロータリークラブ、RIの現実を端的に表現しているのです。

さて、残りの時間は、ロータリーを理解する上で役に立つトピックを幾つか紹介したいと思います。

### 1. 会員同士の取引はどう考えればいいのか？

今はもちろん義務はありませんが、仲間だったらどうするか、と考えてみましょう。仲間が商売をしているのであれば、できるだけ使ってあげたいという気持ちが、ロータリーの人に優しくする心です。また、大事なことは、たとえ一般社会で仲が良くない相手に対しても、その嫌悪感をロータリーに持ち込まずに使ってあげることです。これがロータリーのいいところなのです。

### 2. ロータリーの「平等」とはどんなものか？

「平等」という概念はまるで昔からあった当たり前のものであると考えがちですが、人類の歴史をふり返ると、つい最近まで、人は常に力を前提とした支配する側と支配される側の縦社会の中で

生きてきました。日本でも、平等はいいことだと誰もが知っていながら、実際はいかに不平等な世界が存在しているか、皆さんのよくご存じの通りです。しかし、ロータリーはこのような考えを一切排除して、誰でも等しく同じ価値を持つのだと説いています。これは現実社会の中にあっては理想郷であるかもしれません。しかし、その理想を追い求めるのがロータリーなのです。そのためにはまず、ロータリアン同士が、企業の規模や社会的地位に関係なく、みんな平等な仲間なのだという理想の世界に身を置き実現しなければなりません。ロータリーの自己教育の第一歩です。そして、その平等の境地がいかにパワフルで世の中を変える力を持つかがわかったら、それを自分の会社で、家庭で、社会で、文字通りすべての日常生活において実践する。これがロータリーなのです。

### 3. クラブの仲間と争いが起こった時は？

人間社会に存在する以上、ロータリーであっても人間同士の摩擦が生じることは無理のないことかもしれません。摩擦を避けるために初期ロータリーでは一業種一会員制などが作られました。現在では、争いを避けるため、他の会員の言動に言いたいことはあっても「妥協する」「迎合する」という選択肢がとられることが多いようです。特に日本社会の誤った縦社会感覚では、「先輩が言うのだから仕方ない」と判断してしまいがちです。「とにかくいらんことは言わないで摩擦を避けるのが得なのだ」、これは一般社会のルールですが、ロータリー社会では少し違います。

ロータリーは人を創る、と言われ、自己教育に基づく人格形成の機能がその本質ですが、もし、相手に「それはロータリーでは間違っているよ」と伝えることをとにかく避けてしまえば、切磋琢磨、教育的機能がロータリーからなくなってしまう。では、指摘した結果、摩擦が起こった時はどうすればいいのでしょうか。たとえば他の会員からのアドバイスに対してカチンときたときです。「生意気だ」「偉そうだ」こういう感情を持つのは人の常です。

小堀 憲助は、こういう時に必要なのは、相手の生の言動に対して生の対応を行うのではなく、つまり、すぐカチンときて反応するのではなく、自分の相手に対する解釈を評価することが大事であ

ると言っています。「自分は相手がこういう風と言っているように思うのだが、果たしてその自分の解釈は正しいのか」と、自分の解釈を振り返ることです。人は自分の解釈に自信を持ちたがりますが、どんな時でもいわば「自己否定」の心を持って、そう思う自分の判断は正しいのか、と自問自答する心があればこそ、ロータリアンは人間的に成長できるのです。相手の言動をそのまま責めるのではなく、そう解釈した自分を疑う。この自己否定の心が、ロータリーでは人間形成上非常に重要だということです。また、この心がロータリーの寛容の精神にも繋がっていきます。

ポール・ハリスは「ロータリーはその友愛心にこそ寄せて、善と悪との間に橋渡しをするものではない」と述べています。つまり、仲間なんだからと言う理由で、悪いことでも容認するようではいけないということです。ロータリアンは、相手の心情や考え方に対しては寛容でなければならないが、あまりにも低次元でロータリアンとして許せない認識、ロータリーの教義や奉仕理念に関する正しい理解のない稚拙な発言に対しては、毅然としてそれを非難しなければなりません。これは寛容に反する行動に思えますが、これを「けんか」としてではなく、仲間との建設的な論議として行う技量が必要とされているのです。こんな論議は仲間だからこそできるのであって、できないとしたら、まだ仲間ではないと言うことになります。けんかではなく思いを自由にぶつけ合う理想世界を追い求めるのがロータリーです。これもやはり「自己教育」のひとつなのです。

#### 4. いいクラブとは？（個人的見解）

良いクラブとは、様々な価値観、考え方も持つ多種多様な会員の「全て」を抱え込む度量を持ったクラブだと思っています。クラブは今日お話ししたようなロータリーの本質を正しく会員に伝達する責任を有していますが、そのロータリーの教義を受入れ、実践するかどうかは、実は最終的には個人個人のロータリアンの選択に委ねられます。

たとえば、しっかり自己教育を実践し、世の中を良くしていこうとするもよし、難しいことはいい、ただ仲間とワイワイやればいい、というのもよし。すべて個人の選択です。そのすべてにとって居心地が良いクラブこそ、僕が考える良いクラブです。ただ、ロータリアンはロータリーの教義を受諾し、実践することを誓った人々ですから、厳密に言うと、難しいことはどうでもいい、という方々はロータリアンである資格がないことになることは自覚する必要があります。50年前は、そういうロータリアンは淘汰されてクラブを辞めていくしかなくなると考えられていました。しかし、現在の世の中の変化を考えると、もっと柔軟に優しく、その全てを抱え込むことを考えなければならぬと思うのです。ただし、50年先の将来を考えると、そのご自身の選択を他の会員に強要するようなことがないようにしなければなりません。入会間もない会員に、「ロータリーは難しいことはどうでもええ。とにかく仲良くすること。」とやってしまうのではなく、まずはロータリーを正しく伝え、その上で、「さあ、あなたはどうしますか？」と導くのが良いクラブの実現に向かう唯一の道だと僕は信じています。

ロータリーは自己教育運動です。そこから生まれる人に優しくする心を奉仕として発揮するのがロータリーの奉仕です。決して難しくありません。クラブの未来を担う最近入会された方々、是非将来の広島西ロータリークラブを一般社会の延長ではなく理想郷にしてください。今日はその入口のような話をさせていただきました。ロータリーの本質をしっかり意識にきざんでいただき、皆さんが10年先に、ロータリーに取り組んで本当に良かったと思えるように、また、50年先の未来の会員のために正しくロータリーを伝承することができるクラブを作っていただけるように、心から祈りまして、今日の会長卓話とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

**広島西RC** **検索** 

例会日・木曜日 12:30～13:30  
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島  
会 長 諏訪 昭浩  
幹 事 吉田 大蔵

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78  
リーガロイヤルホテル広島13F  
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870  
E-mail : hwrc@godorc.gr.jp  
作 成・会報雑誌・広報委員会